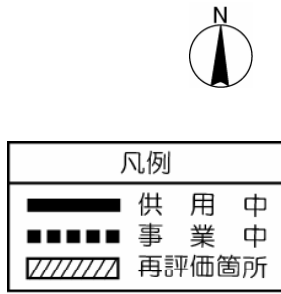


再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道20号下諏訪岡谷バイパス <small>しもすわおかや</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点 自：長野県諏訪郡下諏訪町東町 <small>ながのけんすわぐんしもすわまちひがしまち</small> 至：長野県岡谷市今井 <small>ながのけんおかやしいまい</small>				延長 5.4km
事業概要 一般国道20号は、東京都中央区から山梨県甲府市等を通り、長野県塩尻市に至る延長約225kmの幹線道路である。一般国道20号下諏訪岡谷バイパスは、旧五街道のひとつである中山道とほぼ同じルートの国道20号現道における交通混雑の緩和、交通安全の確保、中央自動車道岡谷ICと諏訪大社などへのアクセス向上による地域観光の支援を目的とした延長5.4kmの路線である。				
H4年度事業化		H2年度都市計画決定		H6年度用地着手
H10年度工事着手				
全体事業費		約464億円	事業進捗率	57%
供用済延長		2.9km（暫定）		
計画交通量		7,000～20,600台/日		
費用対効果分析結果	B/C	総費用 132/470億円 （事業費：119/454億円 維持管理費：13/15億円）	総便益 445/648億円 （走行時間短縮便益：405/535億円 走行費用減少便益：33/102億円 交通事故減少便益：6.8/11億円）	基準年 平成22年
	(事業全体)			
	(残事業)	3.4		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量：B/C= 3.0～3.7（交通量±10%） 事業費：B/C= 3.1～3.7（事業費±10%） 事業期間：B/C= 2.9～3.9（事業期間±20%）				
事業の効果等 (1) 交通混雑の緩和 ・国道20号現道では、全国平均の約4.5倍の渋滞が発生。 ・当該バイパスの整備により、国道20号現道の渋滞緩和が見込まれる。 (2) 安全安心な通行の確保 ・国道20号現道の長地交番前交差点では、全国平均の約2.5倍の死傷事故が発生。 ・当該バイパスの整備による渋滞緩和により、交通事故の減少が見込まれる。 (3) 地域産業の支援（観光） ・諏訪大社など主要観光地へのアクセス向上により地域観光の活性化を支援				
関係する地方公共団体等の意見 県知事の意見：一般国道20号下諏訪岡谷バイパスにつきましては、暫定供用による現道の渋滞緩和や事故件数の減少に顕著な効果が見られており、バイパスの全線整備により安全性の向上や交通渋滞の解消に更なる効果があるものと期待しています。事業継続を図るとともに、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請します。				
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 下諏訪岡谷バイパス暫定2車線（2.9km）、国道142号バイパス及び県道下諏訪辰野線の3路線を同時に平成16年3月27日に供用。長地山の手土地区画整理事業が平成14年度事業完了。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成16年3月に暫定2車線（2.9km）が開通済み。用地取得、未供用区間の調査・設計を実施。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地の取得は約72%完了している。今後、用地の取得を推進するとともに、引き続き、早期完成に向けて事業促進を図る。				
施設の構造や工法の変更等 今後整備するトンネル断面の見直しによる掘削土量の削減等により、事業費を約4億円削減。				
対応方針		事業継続		
対応方針決定の理由 以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、コスト削減の内容、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。				

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。